

第 1 1 3 回 幹 事 会

平成 2 2 年 1 2 月 9 日

日 本 学 術 会 議

第113回幹事会議事次第

日時：平成22年12月9日（木）13:30

		頁
審議事項		
1 委員会関係	提案1 国際委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定	17
	提案2 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定	20
2 提言等	提案3 提言「遺伝子組換え作物実験施設の環境構築」	27
3 団体の指定	提案4 日本学会協議協力学術研究団体の指定	28
4 シンポジウム等	提案5 公開シンポジウム「『経済価値』重視から『健康・生活価値』の探求—健康・生活科学委員会からの学術・教育への緊急提言」	29
	提案6 公開シンポジウム「バイオ医薬品の新たな潮流」	32
	提案7 学術の大型施設計画・大規模研究計画（マスタープラン）に関する物理系シンポジウム	34
	提案8 公開シンポジウム「科学の社会的責任」	37
	提案9 公開シンポジウム「ラミダス猿人の新発見から男女の愛を考える」	39
	提案10 公開シンポジウム「超大型レーザーによる高エネルギー密度科学の展開」	41
	提案11 第2回計算科学シミュレーションシンポジウム「Symposium of Simulation for Computational Science」	44
5 後援	提案12 国内会議	47
6 その他	提案13 『Japanese Journal of Mathematics』（JJM）の電子アーカイブ化に伴う著作権委譲に関する告知	48
その他		
非公開審議事項		
1 委員会関係	提案14 国際委員会における分科会の委員（特任連携会員）の決定	
	提案15 分野別委員会における小委員会の委員の決定等	
2 その他	第3次男女共同参画基本計画（案）への対応について	
	臨時総会等について	
	国際人権ネットワーク対応委員会からの報告	

資料2

第113回幹事会（12月9日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	大垣 眞一郎
副会長	鈴村 興太郎
副会長	唐木 英明

第一部 部長	広渡 清吾
第一部 副部長	小林 良彰
第一部 幹事	木村 茂光

第二部 部長	浅島 誠
第二部 幹事	鷲谷 いづみ

第三部 副部長	後藤 俊夫
第三部 幹事	池田 駿介
第三部 幹事	永宮 正治

事務局長 齋藤 敦

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 審議付託等	1
3 賞等の推薦	1
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	2
2 機能別委員会の開催とその議題	2
3 分野別委員会の開催とその議題	2
4 課題別委員会の開催とその議題	7
5 サイエンスカフェの開催	9
6 総合科学技術会議報告	9
7 慶弔	9

第 1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
11 月 25 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長
11 月 27 日 (土)	日本学術会議中国・四国地区会議学術講演会 (山口大学) ※講演	金澤会長
12 月 2 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、齋藤局長
12 月 2 日 (木)	日本生物物理学会創設 50 周年記念式典・講演 会 ※祝辞	金澤会長

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
世界化学年記念「キュリー夫人科学 伝記読書感想文コンクール」	一般社団法人日本化学連合会長	第三部
第 1 2 回日本口腔機能水学会学術大 会	日本口腔機能水学会会長	第二部
第 6 回日本社会福祉学会フォーラム	一般社団法人日本社会福祉学会 会長	第一部
日本学術会議協力学術研究団体の指 定	富山考古学会他	科学者委 員会

3 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
THE WORLD FOOD PRIZE	各部	照会中

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) **第一部拡大役員会** (第13回) (11月25日)

- ①学術会議の機能強化について ②第21期の活動の総括について
- ③日本の展望の普及活動について ④会員・連携会員の選考手続きについて
- ⑤その他

(2) **第三部拡大役員会** (第28回) (11月26日)

- ①理学・工学分野の科学・夢ロードマップについて
- ②日本学術会議の機能強化について
- ③第三部主催公開シンポジウムについて
- ④WEC2015 招致結果報告 ⑤報告書等審査スケジュール
- ⑥今後の第三部役員会等の開催日程について ⑦その他

2 機能別委員会の開催とその議題

(1) **科学者委員会 学協会の機能強化方策検討等分科会** (第12回)、**学術団体のあり方に関する調査研究小委員会** (第6回) 合同会合 (11月25日)

- ① シンポジウム「公益法人申請のための最新情報説明会」の打合せ
- ② 今後の検討課題について

(2) **科学者委員会学術誌問題検討分科会拡大役員会** (第13回) (11月26日)

- ①提言「包括的学術誌コンソーシアムの創設」の説明
- ②協力学術研究団体との意見交換 ③今後の具体的な方向性の検討について
- ④その他

(3) **科学者委員会学術統計検討分科会** (第4回) (12月1日)

- ①大学ランキングの理想と現実について ②今後の進め方について ③その他

(4) **科学者委員会** (第33回) (12月2日)

- ①協力学術研究団体の指定 (各部回答)
- ②協力学術研究団体の指定 (各部への検討依頼)

3 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) **第一部大型計画検討推進分科会** (第2回) (11月25日)

①第一部大型研究計画について ②その他

(2) 社会学委員会社会理論分科会 (第7回) およびグローバリゼーション小委員会 (第6回)、モダンティ小委員会 (第6回) (11月26日)

①その他の公開シンポジウムについて ②今期の研究のまとめについて
③その他

(3) 哲学委員会分科会合同会議 (11月28日)

国際学術交流分科会 (第3回)

人文知と臨床哲学分科会 (第4回)

芸術と文化環境分科会 (第7回)

古典精神と未来社会分科会 (第3回)

いのちと心を考える分科会 (第3回)

文化・価値の多元性分科会 (第3回)

哲学・倫理・宗教教育分科会 (第8回)

①各分科会の活動報告 (全体会議)
②各分科会の活動方針について (分科会会議)
③今後の活動方針 (全体会議)
④第22期会員・連携会員の選出について (全体会議)
⑤その他

(4) 法学委員会生殖補助医療と法分科会 (第7回) (11月29日)

①佐藤やよひ委員による報告：生殖補助医療と国際私法
②その他

(5) 史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会 (第9回) (11月29日)

①歴史教育サブテキストについて ②シンポジウム準備報告について
③その他

(6) 史学委員会歴史学とジェンダーに関する公開シンポジウム準備分科会 (第2回)

(11月29日)

①シンポジウムの日程・報告者・内容の決定 ②その他

(7) 政治学委員会比較政治分科会 (第3回) (12月1日)

①2011年度の行事日程 ②2011年度の企画
③2011年度6月の公開シンポジウム
④次期比較政治学分科会への申し送り ⑤その他

(8) 法学委員会親密な関係に関する制度設計分科会 (第3回) (12月3日)

- ①報告：法の役割その2「総論－親密圏への国家の介入」(吉田委員)
- ②その他

(9) 言語・文学委員会科学と日本語分科会 (第9回) (12月3日)

- ①日本語の文字体系の将来(報告者 吉田 和彦氏)
- ②その他

(10) 経済学委員会ワーク・ライフ・バランス分科会 (第4回) (12月3日)

- ①今後のWLB分科会の進め方について ②その他

(11) 心理学・教育学委員会脳と意識分科会 (第6回) (12月4日)

- ①今後の連携シンポジウムのあり方について
- ②「脳と意識」分科会のシンポジウムについて ③その他

(12) 基礎医学委員会神経科学分科会 (第4回) (12月4日)

- ①神経科学分野の大型研究計画について
- ②第22期会員および連携会員の推薦について
- ③その他

(13) 地域研究・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会 (第8回) 及び学校地理教育小委員会 (第6回)、地図/GIS 教育小委員会 (第5回)、環境・防災教育小委員会 (第5回)、大学地理教育小委員会 (第5回) (12月5日)

- ①各小委員会からの報告 ②提言内容の審議 ③その他

(14) 地域研究委員会国際地域研究分科会 (第8回) (12月6日)

- ①国際開発協力に関する提言ドラフトの議論 ②その他

第二部担当

(1) 健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会 (第11回) (11月25日)

- ①公開シンポジウムの準備、内容の確認
- ②報告書の内容について ③その他

(2) 農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分科会 (第8回) (11月29日)

- ①分科会WG「知能的太陽光植物工場」について
- ②分科会WG「農林水産RS/GIS」について
- ③今後の分科会の活動について ④その他

(3) 臨床医学委員会感覚器分科会 (第8回) (11月30日)

- ①昨年度と本年度の市民公開講座の原稿と日学新書としての発行について
- ②平成23年度5月21日（土）日本耳鼻咽喉科学会総会（京都）後の市民公開講座について
- ③平成23年度のロードマップ中間検討会について ④その他

（4）**基礎生物学委員会 I U B S 分科会**（第3回）（12月1日）

- ①今後の活動方針 ②その他

（5）**基礎医学委員会神経科学分科会**（第4回）（12月4日）

- ①神経科学分野の大型研究計画について
- ②第22期会員および連携会員の推薦について ③その他

（6）**農学委員会農業経済学分科会**（第8回）（12月5日）

- ①提言の検討
- ②陳依文先生の講演と質疑「台湾における食品安全政策の現状と課題」
- ③その他

（7）**基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会**（第3回）

（12月6日）

- ①統合生物学委員会の最近の活動について
- ②学術の大型研究計画に関する調査（平成22年度）に対する統合生物学委員会の提案について
- ③バイオインフォマティクス分科会としての講演会等について ④その他

（8）**健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会**（第10回）（12月6日）

- ①子どもの運動指針WGからの提言内容について
- ②男女共同参画WGからの報告について ③サイエンスカフェについて
- ④日本スポーツ体育健康科学学術連合について ⑤その他

（9）**臨床医学委員会障害者との共生分科会**（第11回）（12月8日）

- ①報告書のまとめについて ②その他

第三部担当

（1）**環境学委員会環境科学分科会**（第3回）（11月15日）

- ①分科会委員長の交代について ②その他

（2）**エネルギーと科学技術に関する分科会**（第4回）（11月22日）

- ①分科会委員長の交代について

- ②National Ignition Facilityに関する公開シンポジウムについて
- ③学術の大型研究計画について

(3) 土木工学・建築学委員会拡大役員会 (第9回) (11月29日)

- ①分野別委員会年次報告の件
- ②分科会の活動状況報告
- ③課題別委員会「防災分野における国際協力のあり方検討委員会」審議経緯報告
- ④会員・連携会員の選考方法の件
- ⑤「日本の展望」の今後の進め方について
- ⑥グリーン・イノベーションの材料分科会の件
- ⑦その他 (シンポジウム開催、今後のスケジュール等)

(4) 地球惑星科学委員会国際対応分科会SCOSTEP小委員会 (第7回)、STPP小委員会 (第6回) (11月29日)

- ①日本学術会議の大型研究計画について ②その他

(5) 土木工学・建築学委員会社会資本分科会 (第7回) (12月1日)

- ①エリアマネジメントについて ②その他

(6) 化学委員会分析化学分科会 (第8回) (12月2日)

- ①先端計測シンポジウム (仮題) の件
 - 1) 正式タイトル 2) シンポジウムの進行 (司会者その他) について
 - 3) その他
- ②今後の活動について ③その他

(7) 地球惑星科学委員会地球惑星科学企画分科会 (第12回) (12月4日)

- ①学術の大型施設計画・大規模研究計画のマスタープランのヒアリング
- ②その他

(8) 地球惑星科学委員会地球惑星科学企画分科会 (第13回) (12月5日)

- ①学術の大型施設計画・大規模研究計画のマスタープランのヒアリングまとめ
- ②その他

(9) 総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同WFEO分科会 (第12回) (12月6日)

- ①WEC2015に対する準備事項について
- ②CDRMについて ③その他

(10) 物理学委員会IAU分科会 (第11回)、物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会 (第12回) (12月6日)

- ①大型計画の改定について ②最近の天文学宇宙物理分野での進捗状況
- ③その他

(11) **機械工学委員会**（第4回）（12月8日）

- ①報告
 - 1) 年間活動報告
 - 2) 分科会報告
 - 3) 大型研究施設
 - 4) 学術会議機能強化
- ②今後の活動について 「日本の展望」を受けて
- ③第22期会員・連携会員推薦について
- ④その他

(12) **化学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会合同マイクロ・ナノエンジニアリング分科会**（第2回）（12月8日）

- ① シンポジウムについて ②今後の活動について ③報告書等について
- ④その他

4 課題別委員会の開催とその議題

(1) **自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会拡大役員会**（第2回）（11月29日）

- ①アンケート結果の分析 ②目次案と執筆担当の検討 ③今後の日程の確認
- ④その他

(2) **持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティの構築委員会ジェロントロジー教育分科会**（第4回）（11月29日）

- ①骨子案について ②その他

(3) **人間の安全保障とジェンダー委員会**（第9回）（11月30日）

- ①ヒアリング
 - 1) 「安全で安心な環境をめざして」古崎委員
 - 2) 「日本における災害予防、発生直後の対策、復興過程などにおけるジェンダー課題」原委員
- ②その他

(4) **労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会**（第12回）（12月3日）

- ①JILJPTの今後について（吾郷、和田報告）
- ②提言骨子の検討について
 - 1) 副委員長からの骨子案の確認

- 2) 雇用労働にかかわるILO国際基準などの取り込みの方針
- 3) 提言本文に添える引用文献と「資料とすべきもの」を列挙
- ③その他

- (5) 労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会（第13回）（12月5日）
 - ①今後の産業保健サービスのあり方について（小木、井谷報告）
 - ②提言骨子の検討について ③その他

- (6) 自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会（第6回）、各分科会および小委員会合同会議（12月6日）
 - ①拡大役員会報告 ②アンケート結果の分析 ③目次案と執筆担当の検討
 - ④今後の日程の確認 ⑤その他

- (7) 自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会防災分野の国際協力に関する基本戦略分科会（第5回）（12月6日）
 - ①報告書内容検討 ②日程確認 ③その他

- (8) 自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会国際プログラム連携分科会（第6回）（12月6日）
 - ①IRDR FORIN報告 林サーベ、Geneva会議
 - ②IRDR SC4報告 Beijing会議
 - ③課題別委員会最終報告連携分科会分担部分の取りまとめ ④その他

- (9) 東アジア共同体の学術基盤形成委員会（第2回）（12月7日）
 - ①アジア地域における学術交流経験について
 - ②アンケート調査について ③その他

- (10) 持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティーの構築委員会持続可能な長寿社会に資する学術のロードマップ分科会（第4回）（12月7日）
 - ①アンケート結果報告について ②提言書骨子案について
 - ③今後の進め方について ④その他

- (11) 持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティーの構築委員会ジェロントロジー研究体制分科会（第4回）（12月7日）
 - ①提言の内容に関する検討 ②今後の進め方について ③その他

- (12) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会拡大役員会（第10回）（12月7日）
 - ①理工学教育全体についての検討を行う分科会の設置について ②その他

5 サイエンスカフェの開催

(1) 11月26日(金) 19:00～20:30

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ：「自然の智慧に学ぶ新しい企業経営の哲学と実践」

講 師 向山 孝一 (KOA 株式会社代表取締役社長)

ファシリテーター：毛利 衛 (日本学術会議会員、日本科学未来館館長)

6 総合科学技術会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

○基本政策専門調査会 研究開発システムワーキンググループ (第12回)

(11月17日)

(1) とりまとめに向けた検討について (2) その他

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

11月25日 会長出席

12月 2日 会長出席

12月 9日 会長出席予定

7 慶弔

○ ご逝去

伊木 正二 (いきしょうじ) 97歳 12月3日 第8期会員 第5部
東京大学名誉教授

佐藤 豪 (さとうたけし) 89歳 12月3日 第16期会員 第5部
元金沢工業大学学長、慶応義塾大学名誉教授

1	
幹事会	1 1 3

提 案

国際委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定について

提 案 者 国際委員会委員長

議 案 (1) 国際委員会運営要綱の一部改正（持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2011 分科会設置）
 (2) 国際委員会における分科会の委員の決定（持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2011 分科会委員の決定）

提案理由 下記の国際委員会における分科会の設置に伴い運営要綱を一部改正し、委員の決定をする必要があるため。

記

（ 国際委員会 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2011 分科会 ）

氏名	所属・職名	備考
鈴村 興太郎	早稲田大学政治経済学術院教授	第一部会員
唐木 英明	東京大学名誉教授	第二部会員
大垣 眞一郎	独立行政法人国立環境研究所理事長	第三部会員
安成 哲三	名古屋大学地球水循環研究センター教授	第三部会員
岡本 耕平	名古屋大学環境学研究科教授	連携会員
沖 大幹	東京大学生産技術研究所教授	連携会員
甲山 隆司	北海道大学大学院地球環境科学研究科教授	連携会員
中静 透	東北大学大学院生命科学研究科教授	連携会員
林 良嗣	名古屋大学・交通都市国際研究センター長	連携会員
氷見山 幸夫	北海道教育大学教育学部教授	連携会員

国際委員会運営要綱（平成 1 7 年 1 0 月 4 日日本学術会議第 1 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

次の表のように改める。

改 正 後				改 正 前			
別表 1				別表 1			
分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考	分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2010 分科会	(略)	(略)	(略)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2010 分科会	(略)	(略)	(略)
<u>持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2011 分科会</u>	<u>持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2011 を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること</u>	<u>委員会の委員 3 名以内並びに委員長が必要と認める会員又は連携会員 2 5 名以内</u>	<u>設置期間：平成 22 年 12 月 9 日～平成 23 年 9 月 30 日</u>	(新規設置)			
日本・カナダ女性研究者交流分科会	(略)	(略)	(略)	日本・カナダ女性研究者交流分科会	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附 則 この決定は、決定の日から施行する。

(様式)

持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2011 分科会の設置について

分科会等名：持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2011 分科会

1	所属委員会名 (複 数 の 場 合 は、主体となる 委員会に○印を 付ける。)	国際委員会
2	委員の構成	委員会の委員 3 名以内並びに委員長が必要と認める会員又は連携会員 2 5 名以内
3	設 置 目 的	本分科会は、持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題に対し様々な側面から議論を行い、その解決策を探るため、日本学術会議が年 1 回開催している国際会議の企画及び実施を目的とし設置する。
4	審 議 事 項	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2011 を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること
5	設 置 期 間	時限設置 平成 22 年 12 月 9 日～平成 23 年 9 月 30 日
		常設
6	備 考	

2	
幹事会	1 1 3

提 案

分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定について

- 1 提 案 者 （議案(1)について）
基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長、薬学委員会
委員長、総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長
（議案(2)について）
第三部部長
- 2 議 案 (1)分野別委員会運営要綱の一部改正（新規設置 1 小委員会、
設置期間延長 2 分科会）
(2)分野別委員会分科会等の委員の決定（2 件）
- 3 提案理由 下記の分野別委員会における分科会の設置期間の延長及び
小委員会の設置に伴い運営要綱を一部改正するとともに、分
科会等の委員を決定する必要があるため。

分野別委員会運営要綱(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄の掲げる規定をこれに対応する改正後の欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後					改 正 前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
基礎医学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	基礎医学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	基礎医学委員会・臨床医学委員会合同医学教育分科会	臨床医学委員会に記載	臨床医学委員会に記載	設置期間： 平成20年10月3日～平成23年9月30日		基礎医学委員会・臨床医学委員会合同医学教育分科会	臨床医学委員会に記載	臨床医学委員会に記載	設置期間： 平成20年10月3日～平成22年12月31日
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
臨床医学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	臨床医学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	基礎医学委員会・臨床医学委員会合同医学教育分科会	・卒前及び卒後医学教育の一貫性の吟味 ・卒後臨床研修制度と大学院実質化及び専門医制度の関連	20名以内の会員又は連携会員	設置期間： 平成20年10月3日～平成23年9月30日		基礎医学委員会・臨床医学委員会合同医学教育分科会	・卒前及び卒後医学教育の一貫性の吟味 ・卒後臨床研修制度と大学院実質化及び専門医制度の関連	20名以内の会員又は連携会員	設置期間： 平成20年10月3日～平成22年12月31日
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
薬学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	薬学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	薬学委員会薬剤師の職能とキャリアパス分科会	・化学を基盤に薬物治療を通じて医療に貢献する薬剤師の高度かつ新しい職能のあり方 ・高度な職能を持つ薬剤師の育成に向けたキャリアパス制度の整備の方策について審議する	20名以内の会員又は連携会員	設置期間： 平成20年11月27日～平成23年9月30日		薬学委員会薬剤師の職能とキャリアパス分科会	・化学を基盤に薬物治療を通じて医療に貢献する薬剤師の高度かつ新しい職能のあり方 ・高度な職能を持つ薬剤師の育成に向けたキャリアパス制度の整備の方策について審議する	20名以内の会員又は連携会員	設置期間： 平成20年11月27日～平成22年12月31日
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会	計算科学シミュレーション技術基盤に関すること	35名以内の会員又は連携会員			基礎医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会	計算科学シミュレーション技術基盤に関すること	35名以内の会員又は連携会員	
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)

	総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 計算力学小委員会	・国内態勢や国際連携、国際貢献のあり方 ・アジアや世界との連携方策に特化した議論をし将来のあり方	10名以内の 会員、連携会 員又は会員若しくは連携会 員以外の者	設置期間： 平成22年12 月9日～平 成23年9月 30日		(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載			基礎医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会	計算科学シミュレーション技術基盤に関すること	35名以内の 会員又は連携 会員	
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 計算力学小委員会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載	設置期間： 平成22年12 月9日～平 成23年9月 30日		(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)

	総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 計算力学小委員会	・国内態勢や国際連携、国際貢献のあり方 ・アジアや世界との連携方策に特化した議論をし将来のあり方	10名以内の 会員、連携会 員又は会員若しくは連携会 員以外の者	設置期間： 平成22年12 月9日～平 成23年9月 30日		(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載			基礎医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会	計算科学シミュレーション技術基盤に関すること	35名以内の 会員又は連携 会員	
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 計算力学小委員会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載	設置期間： 平成22年12 月9日～平 成23年9月 30日		(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)

附則
この決定は、決定の日から施行する。

(様式)

総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会
計算力学小委員会の設置について

分科会等名：計算力学小委員会

1	所属委員会名	○総合工学委員会、機械工学委員会				
2	委員の構成	10名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者				
3	設置目的	計算力学は実験、理論に続く第三の手法としてモノづくり、安全問題などにおいて欠かせないものとなっておりその学術も日々発展している。 国際的には、国際計算力学連合（IACM）がその方面の学術のまとめ役になっており2年ごとの約3000名の学術集会、年に10回を超えるシンポジウムなど十分にまとまって機能しているが、我が国においては複数の計算力学関連学会で独自にそれなりの活動をしているとはいえ我が国全体として統一やまとまりがなく非効率な活動、運営態勢となっている。そこでこの方面の学会代表者が、今後の国内態勢や国際連携、国際貢献のあり方、アジアや世界との連携方策に特化して議論して将来のあり方を検討する。				
4	審議事項	計算力学に関し、今後の国内態勢や国際連携、国際貢献のあり方、アジアや世界との連携方策に特化した議論をし将来のあり方を検討する				
5	設置期間	<table><tr><td>時限設置</td><td>平成22年12月9日～平成23年9月30日</td></tr><tr><td>常設</td><td></td></tr></table>	時限設置	平成22年12月9日～平成23年9月30日	常設	
時限設置	平成22年12月9日～平成23年9月30日					
常設						
6	備考					

基礎医学委員会・臨床医学委員会合同分科会の設置について

分科会等名： 医学教育分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	基礎医学委員会 ○臨床医学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	我が国の医学教育のあり方については、これまでも議論のあるところで、確立されているとは言い難い。特に、卒前教育(例えば、クリニカルクラークシップ)と卒後臨床研修制度の関連、卒後臨床研修制度と大学院の実質化の問題、あるいはこれらと専門医制度の関係は、系統的に十分な検討がなされていない。 今後の我が国の「科学技術立国」としての立場と、「医師養成」の課題が、卒前、卒後の医学教育の時期に集中的に問われており、これを整理し、どのような教育体制とするべきかが、焦眉の課題となっている。 本分科会においては、複合的、長期的観点からこれらの点について討論する。
4	審議事項	(1) 卒前及び卒後医学教育の一貫性の吟味 (2) 卒後臨床研修制度と大学院実質化ならびに専門医制度の関連
5	設置期間	平成20年10月3日～22年12月31日
	設置期間延長	平成23年9月30日まで延長
	延長理由	提言書案の作成・精査等に時間を要するため。
6	備考	

薬学委員会分科会の設置について

分科会等名： 薬剤師の職能とキャリアパス分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	薬学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	6年制学部教育を基盤とする新薬学教育制度により生まれる、高度な医療知識と技術を有し医療現場にも精通した薬剤師が将来の医療体制の中で担うべき職能と、キャリア形成のために必要な諸方策について検討を行うと共に、医学等関連分野の研究者と情報交換を行う。
4	審議事項	医療に従事する専門職の中でも、薬剤師は、臨床、研究(学術)、産業、さらに薬事行政と幅広い職域を持つユニークな職能である。高度化した医療、また変化の激しい社会・産業構造のもとで、化学を基盤に薬物治療を通じて医療に貢献する薬剤師の高度かつ新しい職能のあり方と、高度な職能を持つ薬剤師の育成に向けたキャリアパス制度の整備の方策について審議する。
5	設置期間	平成20年11月27日～22年12月31日
	設置期間延長	平成23年9月30日まで延長
	延長理由	<u>薬剤師の職能については、チーム医療の観点から現在活発に議論が行われている。「日本の展望」の一部として「薬学分野の展望」が表出されたが、本報告の中でも多くの課題が提言されており、これを具体化する作業に第21期末まで継続して取り組む予定である。</u>
6	備考	

○ 設置及び委員の決定（１件）

（ 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会 計算力学小委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
矢川 元基	東洋大学計算力学研究センター長・教授	第三部会員
萩原 一郎	東京工業大学大学院理工学研究科教授	連携会員
宮崎 則幸	京都大学大学院工学研究科教授	連携会員

○ 委員の決定（追加１件）

（ 土木工学・建築学委員会社会資本分科会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
林 良嗣	名古屋大学・交通都市国際研究センター長	連携会員

3	
幹事会	1 1 3

提 案

提言「遺伝子組換え作物実験施設の環境構築」

- 1 提 案 者 農学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「遺伝子組換え作物実験施設の環境構築」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

4	
幹事会	1 1 3

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

- 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

- ・ 日本ウーマンズヘルス学会

平成 22 年 12 月 9 日現在 1845 団体(上記申請団体を含む。)

団体の概要

- ・ 日本ウーマンズヘルス学会
女性の健康の向上を図り、女性の健康支援の発展に貢献することを目的としている。

5	
幹事会	1 1 3

提 案

公開シンポジウム「『経済価値』重視から『健康・生活価値』の探求—健康・生活科学委員会からの学術・教育への緊急提言」の開催について

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会
2. 後 援：日本医歯薬アカデミー（予定）
3. 日 時：平成 23 年 1 月 7 日（金）13:00～17:00（予定）
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 委員会の開催：委員会開催予定
6. 開催趣旨：

人々の健康と生活は現在、多様で深刻な問題に直面している。まず地球規模で進む環境破壊の問題が人々の健康と生活に大きな影響を及ぼしている。また、我が国では少子高齢化が進み、地域では医療危機がますます深刻化し保健医療現場の疲弊が進んでいる。財政の低迷は雇用環境の悪化を引き起こし、社会格差がさらなる広がりを見せ、同時に健康格差や、年金や社会保障など種々の問題に波及しつつある。また日常生活における生活力や生活体力の低下など多様で深刻な現在の社会問題は、次世代社会への人々の生命・生活の質（QOL）への脅かしとなっている。

一方、人間の健康と生活や安全を中心に据えながら環境と社会に向き合う学問の発展は、今、まだその緒についたばかりである。現代社会が抱える健康と生活の劣化とそれへの対応は、一側面からの研究では解明し難い。多元的で他世代に及ぶ現象を、人間の生活の質 人間の生活環境 人間の生きる力、生活力といった多元的な視点から切り込み、解明の糸口を探るため、人間生活にかかわ

る分離融合型の統合的研究推進が求められている。さらに、健康・生活科学分野の研究の成果について、国民の理解を得、国民が科学を力とするためには、小学校、中学校、あるいは、高等学校など学校教育の早期から系統だった教育が必要であると考ええる。

健康・生活科学は、人々が環境との関わりにおいてより健康で豊かな生活を送るため、生命・生活の質（Quality of life, 以後、QOL）を高めることとともに、それを担保する健康と安全のための保健医療政策やシステム、マネジメント、教育等を含めて追求する総合的な学問分野といえる。日本学術会議健康・生活科学委員会には、パブリックヘルス科学、看護学、生活科学、スポーツ科学の各分野の問題を扱う分科会に加え、他の委員会等の合同の分科会が所属し、健康・生活科学に関する学術のあり方を多角度から議論している。

本シンポジウムでは、戦後の『経済価値』重視の視点から、『健康・生活価値』への転換および共存について、特に学術の発展の方向性と次世代教育への提言を健康・生活科学の分野から行うものである。

本シンポジウムは、広く一般に公開することで、多くの研究者や教育者とともに人々の健康と生活の質の向上にむけた新たな価値の追求について討論することで、健康・生活科学の更なる発展の方向性が明らかになることが期待される。また、『日本の展望—学術からの提言 2010 健康・生活科学分野の展望』を広く社会に公開する機会にもなると考える。

7. 次第：

○開会挨拶と趣旨説明：

南 裕子（日本学術会議第二部会員・同健康・生活科学委員会委員長、
近大姫路大学学長）

○会長ご挨拶：

金澤一郎（日本学術会議会長、宮内庁皇室医務主管）

○司会と進行：

春日文子（日本学術会議第二部会員・同健康・生活科学委員会幹事、国
立医薬品食品衛生研究所室長）

○シンポジスト

1）公衆衛生学分野から

岸 玲子（日本学術会議第二部会員・同健康・生活科学委員会副委員長、北海道大
学環境健康科学研究教育センター長・特
任教授）

2）看護学分野から

太田 喜久子（日本学術会議連携会員、慶
応大学看護医療学部教授）

3）スポーツ健康科学分野から

福永 哲夫（日本学術会議第二部会員、鹿

4) 生活科学分野から 屋体育大学学長)
片山 倫子 (日本学術会議第二部会員、・
同健康・生活科学委員会幹事、東京家政
大学家政学部教授)

○総括

南 裕子 (日本学術会議第二部会員・同健康・生活科学委員会委員長、
近大姫路大学学長)

○シンポジウムの閉会

岸 玲子 (日本学術会議第二部会員・同健康・生活科学委員会副委員長
北海道大学環境健康科学研究教育センター長・特任教授)

8 . 関係部の承認の有無：第二部承認

6	
幹事会	1 1 3

提 案

公開シンポジウム「バイオ医薬品の新たな潮流」の開催について

- 1．提案者 薬学委員会委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1．主 催：日本学術会議薬学委員会生物系薬学分科会、日本薬学会
- 2．日 時：平成 23 年 1 月 21 日（金）、10:00～16:45
- 3．場 所：日本学術会議講堂
- 4．分科会：分科会開催予定
- 5．開催趣旨：

近年、抗体医薬品や改変タンパク質医薬品の開発が急速に進んでいる。さらに治療用ワクチンの開発や核酸医薬品などバイオ医薬品開発は新たな局面に立っている。2010 年代の後半には抗体医薬品が承認される新薬の 30% に達するとも言われており、バイオ医薬品の医療上の重要性は非常に大きくなってきている。本シンポジウムでは、抗体医薬品をめぐる話題として、従来の抗体医薬品に加えて様々な修飾抗体、2 価抗体、改変抗体などの開発戦略、その品質や安全性評価、さらには有効性の評価の問題点などについて、その他のタンパク質製品に関する話題として、今後増大してくる改変タンパク質や細胞内導入を目指した DDS タンパク質製品について、さらに核酸医薬品の開発や評価について、第一線の研究者らに講演して頂き、我が国におけるバイオ医薬品の開発戦略を議論する場としたい。

6．次第（予定）

10:00～10:15 挨拶 金澤一郎(日本学術会議会長、宮内庁皇室医務主管)
橋田充(日本学術会議第二部会員、同薬学委員会委員長)
西島正弘(日本学術会議連携会員、同薬学委員会生物系薬学
 分科会委員長)

【座長：山元 弘(日本学術会議連携会員、神戸学院大学薬学部教授)】

- 10:15～10:45 バイオ医薬品の新たな展開と国民の期待
山口照英（独立行政法人医薬品医療機器総合機構
生物系審査第一部テクニカルエキスパート）
- 10:45～11:15 トシリズマブ - 日本発の抗体医薬品第一号
大杉義征（株式会社中外製薬プライマリー学術情報部長）
- 11:15～11:45 バイオ医薬品による疾病治療の最適化を目指して
堤 康央（大阪大学薬学研究科教授・医薬基盤研究所）

11:45～13:15 休憩

【座長：眞弓忠範（日本学術会議連携会員、神戸学院大学大学院薬学研究科教授）】

- 13:15～13:45 機能性オリゴ核酸を用いた創薬とそれを支える DDS 技術
岡田弘晃（東京薬科大学薬学部教授）
- 13:45～14:15 抗体医薬品の品質・安全性評価の新潮流
川崎ナナ（国立医薬品食品衛生研究所生物薬品部長）
- 14:15～14:45 喘息における分子標的治療
大田 健（帝京大学医学部教授）

14:45～15:00 休憩

【座長：花岡文雄（日本学術会議連携会員、学習院大学理学部生命科学科教授）】

- 15:00～15:30 核酸医薬品の課題と開発戦略
中澤隆弘（アンジェス MG 株式会社研究開発本部長）
- 15:30～16:00 RNA の造形力を利用したアプタマー創薬
中村義一（東京大学医科学研究所教授）
- 16:00～16:30 バイオ医薬への期待と今後の課題
宮田 満（日経 BP 社医療局主任編集委員）
- 16:30～16:45 まとめ
西島正弘（日本学術会議連携会員、同薬学委員会生物系薬学分
科会委員長）

7．関係部の承認の有無：第二部承認

7	
幹事会	1 1 3

提 案

「学術の大型施設計画・大規模研究計画（マスタープラン）に関する物理系シンポジウム」の開催について

- 1．提案者 物理学委員会 委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1．主 催： 日本学術会議 物理学委員会
- 2．日 時：平成 23 年 1 月 31 日（月）9：30 ～ 18：00
- 3．場 所： 日本学術会議講堂
- 4．分科会の開催：物理学委員会を開催予定
- 5．開催趣旨：

日本学術会議の「学術の大型施設計画・大規模研究計画 -企画・推進策の在り方とマスタープラン策定について-」が提言された。その見直しも予定されている。この機に、物理学領域全体の動向を一望にして研究者の鳥瞰的な理解や意見交換の促進をはかる事を趣旨としてシンポジウムを開催する。
- 6．次 第： 別紙の通り（物理学委員会委員 4 名が参加）
- 7．関係部の承認の有無：第三部承認
- 8．申し込み方法・連絡先

九州大学応用力学研究所伊藤早苗研究室（日永田、杉谷）
 tel: 092-583-7721
 fax:092-583-7723
 e-mail: <s-iitoh@riam.kyushu-u.ac.jp>, <inagaki.riam@gmail.com>

「学術の大型施設計画・大規模研究計画（マスタープラン）に関する
物理系シンポジウム」次第

- 9:30 開催挨拶と趣旨説明 伊藤早苗（第三部会員・物理学委員会委員長）*
9:45 学術の大型施設計画・大規模研究計画の考え方
永宮正治（第三部幹事・物理学委員会委員）*
10:00 学術行政の立場から 文部科学省研究振興局長 倉持隆雄
- 10:30 11:20 相原博昭（連携会員・物理学委員会幹事）*・田村裕和
：素粒子・原子核分野
B ファクトリー加速器の高度化による新しい物理法則の探求
J-PARC 加速器の高度化による物質の起源の解明
国際リニアコライダー（ILC）の国際研究拠点の形成
大型先端検出器による核子崩壊・ニュートリノ振動実験
RIBF の RI ビーム発生系の高度化による不安定核の研究
11:20-11:45 討論とコメント
11:45 - 12:00（質疑含む）森山裕丈：複合原子力科学の有効利用に向けた先導的研究の推進
- （12:00 13:15 物理学委員会）
- 13:15 14:05 須藤靖（連携会員・物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会・
I A U 分科会委員）*：天体宇宙物理分野
大型低温重力波望遠鏡（LCGT）計画
30m 光赤外線望遠鏡（TMT）計画
一平方キロメートル電波干渉計（SKA）計画
次世代赤外線天文衛星（SPICA）計画
アストロ-H（ASTRO-H）計画
14:05-14:30 討論とコメント
14:30-15:00 山田弘司：プラズマ核融合分野
高性能核融合プラズマの定常実証研究
非平衡極限プラズマ 全国共同連携ネットワーク研究計画
高エネルギー密度科学研究推進計画
15:00-15:15 討論とコメント
- 15:15-15:30 休憩
- 15:30-15:45（質疑含む）宇川彰：計算基礎科学ネットワーク拠点
15:45-16:25 家泰弘（第三部会員・物理学委員会副委員長）*
：物質科学分野（4 計画）
高強度パルス中性子・ミュオンを用いた物質生命科学研究
放射光科学の将来計画
物質開発ネットワーク拠点

強磁場コラボラトリー（次世代強磁場施設）計画

16:25-16:45 討論とコメント

16:45-17:00 新規提案

17:05 17:45 総合討論とコメント

17:45 18:00 結びの言葉 家泰弘（第三部会員・物理学委員会副委員長*

8	
幹事会	1 1 3

提 案

公開シンポジウム「科学の社会的責任」の開催について

- 1．提案者 第二部部長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1．主 催：日本学術会議第二部
- 2．後 援：未定
- 3．日 時：平成 23 年 2 月 1 日（火）13:00～16:00（予定）
- 4．場 所：日本学術会議講堂
- 5．部会：第二部会開催予定

6．開催趣旨：

1999 年にブダペストで開催された世界科学会議で、科学界は従来の「知識のための科学」に加えて「社会のための科学」の確立を目指すことが宣言され、科学の力で社会の問題を解決することが期待された。また各国は経済的發展を目指す「科学技術立国」政策を採用している。一方、科学者の不正行為が科学の質の低下を招いている現実もある。したがって科学の社会における責任を果たすためには科学の質保証が必要である。また、最近の会長談話で取り上げたホメオパシー問題のように、社会には非科学の横行や科学に対する不信などの現実もあり、それらに対する対策も必要である。そこで生命科学の各分野における科学と社会の関係に関する課題と対策について考えてみたい。

7．次第（予定）

1 科学の社会的責任・課題と対策

浅島誠（日本学術会議第二部会員、産業技術総合研究所フェロー兼幹細胞工
学研究センター長）

- 2 医学の社会的責任・課題と対策
桐野高明（日本学術会議第二部会員、（独）国立国際医療研究センター総長）
- 3 歯科医学の変遷（調整中）
米田俊之（日本学術会議第二部会員、大阪大学大学院歯学研究科生化学講座教授）
- 4 薬学の社会的責任・課題と対策
橋田充（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院薬学研究科教授）
- 5 健康・生活科学の社会的責任・課題と対策
南裕子（日本学術会議第二部会員、近大姫路大学学長）
- 6 農学・食料科学の社会的責任 - 課題と対策 -
新山陽子（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）
- 7 理学の社会的責任・課題と対策
黒岩常祥（日本学術会議第二部会員、立教大学大学院理学研究科・極限生命情報研究センター長、特任教授）
- 8 倫理的な心・不正をする心（調整中）
藤田一郎（大阪大学大学院生命機能研究科教授）
- 9 まとめ
唐木英明（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授）

9	
幹事会	1 1 3

提 案

公開シンポジウム「ラミダス猿人の新発見から男女の愛を考える」の開催について

- 1．提案者 基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1．主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会、日本人類学会、東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻、日本霊長類学会、日本文化人類学会、（その他調整中）
- 2．後 援：未定
- 3．日 時：平成 23 年 2 月 6 日（日）14:00～17:00（予定）
- 4．場 所：東京大学 理学部 2 号館 大講堂
（東京都文京区本郷 7 - 3 - 1）
- 5．分科会：分科会開催予定
- 6．開催趣旨：

自然人類学の研究の中心は、現在でも化石骨の研究である。昨年、アフリカで発見されたラミダス猿人の研究成果が一連の論文として日本の研究者を含む国際チームによって発表された。

その成果には、ラミダス猿人の男女差が小さいという、人間の特徴がすでに現れていた。そこで、日本におけるラミダス猿人研究の中心である諏訪元教授にまず講演していただき、さらに男女の性差についての考察を、長谷川眞理子教授（日本学術会議連携会員）が話すという形式で、数百万年にわたる人類進化を立体的に議論する機会を提供したい。
- 7．次第（予定）

14:00～14:05 主催者挨拶（講演者調整中）

14:05～15:05 ラミダス猿人のすべて（仮題）

諏訪元（東京大学総合研究博物館・教授）

15:05～15:35 講演

馬場悠男（日本学術会議連携会員、国立科学博物館名誉研究員）

山極壽一（日本学術会議連携会員、京都大学大学院理学研究科教授）

中務真人（京都大学大学院理学研究科教授）

15:35～15:50 休憩

15:50～16:30 現代人における人間の性差（仮題）

長谷川真理子（日本学術会議連携会員、総合研究大学院大学教授）

16:30～17:00 全体討論

8．関係部の承認の有無：第二部承認

1 0	
幹事会	1 1 3

提 案

公開シンポジウム「超大型レーザーによる高エネルギー密度科学の展開」 の開催について

1. 提案者 総合工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 日本学術会議総合工学委員会
2. 共 催：（予定） 日本物理学会，日本天文学会，プラズマ核融合学会，レーザー学会，日本原子力学会
3. 後 援：（予定）原子力委員会
協 賛：（予定）大阪大学レーザーエネルギー学研究センター，I F E フォーラム
4. 日 時：平成23年2月14日（月） 10：00～17：15
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催： 無し

7. 開催趣旨：

アポロ11号以来の巨大科学プロジェクトである米国立点火施設NIFが完成し、両三年の間に人類初の制御された核融合燃焼が起きると期待されている。そこでは、宇宙物理や高エネルギー物理をはじめとする基礎科学の最先端の課題を探求する新しい実験の場が出現する。これを積極的に利用するために、NIFのマシーнтаイムの相当な割合が世界の基礎科学研究に開放されることになった、まさに平和への配当である。このような状況の下、その科学的重要性を広くアピールすることを目的として学術会議シンポジウムを開催し、我が国の基礎科学と関連分野の展望を議論する。

8. 次 第：

- | | | |
|-------|--------------|--------------------------------------|
| 10:00 | 開会挨拶 | 後藤俊夫（中部大学 副学長）
日本学術会議第三部副部長、第三部会員 |
| 10:05 | 米国政府代表挨拶 | Steven E. Koonin（予定） |
| 10:15 | 日本原子力委員会代表挨拶 | 近藤駿介 原子力委員長 |

- 10:20 プラズマ核融合分野代表挨拶 飯吉厚夫（予定）
（中部大学総長）日本学術会議連携会員
- 10:25 日本学術会議総合工学委員会代表挨拶 矢川元基（東洋大学）
日本学術会議総合工学委員長、第三部会員

基調講演

- 10:30 「国立点火施設 NIF:人類初の制御核融合と新しい科学の機会」
Edward I. Moses 米国ローレンスリバモア国立研究所国立点火施設所長
- 11:10 「高エネルギー物理から高強度レーザーに期待するもの」
鈴木厚人 高エネルギー加速器研究機構長（日本学術会議連携会員）
- 11:50 「大型レーザーが切り拓く挑戦的基礎科学」
高部英明 大阪大学レーザーエネルギー学研究センター教授

12:30 昼食休憩

招待講演

- 13:40 「NIF における物質科学」 Raymond Jeanloz
カリフォルニア大学バークレー校教授
- 14:10 「仮説：大エネルギーレーザー = 極短パルスへの道」
田島俊樹 ミュンヘン大学教授
- 14:40 「光科学から NIF に期待するもの」 加藤義章 光産業創成大学院大学学長

15:10 休憩

15:25 パネル討論

コーディネーター 立花 隆 科学ジャーナリスト

パネリスト 疇地 宏 大阪大学レーザーエネルギー学研究センター長
海部宣男 国立天文台名誉教授（日本学術会議第三部会員）
Steven E. Koonin（予定） 米国エネルギー省科学次官
Raymond Jeanloz カリフォルニア大学バークレー校教授
永宮正治 J-PARC センター長（日本学術会議第三部会員）
Edward I. Moses
米国ローレンスリバモア国立研究所国立点火施設所長
山地憲治 地球環境産業技術研究機構理事・研究所長
（日本学術会議会員）

- 17:10 閉会挨拶 井上孝太郎 日本学術会議「エネルギーと科学技術に関する分科会」委員長（日本学術会議連携会員）

17:15 終了

9．関係部の承認の有無： 第三部承認

10．申し込み方法：申し込みホームページを開設予定．

連絡先：〒565-0871

大阪府吹田市山田丘 2-6 大阪大学レーザー・エネルギー学研究センター内
烏山幸子 (Tel: 06-6879-8701, E-mail: karasuyama-s@ile.osaka-u.ac.jp)

1 1	
幹事会	1 1 3

提 案

第2回計算科学シミュレーションシンポジウム 「Symposium of Simulation for Computational Science」の開催について

- 1．提案者 総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1．主 催： 総合工学委員会・機械工学委員会合同
計算科学シミュレーションと工学設計分科会
- 2．共 催： 日本機械学会、日本応用数理学会、日本計算工学会、
日本シミュレーション学会、
JACM(Japan Association for Computational Mechanics)、
アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合
- 3．日 時： 平成23年4月20日(水)10時00分～17時00分
- 4．場 所： 日本学術会議講堂
- 5．委員会等の開催：計算科学シミュレーションと工学設計分科会
- 6．開催趣旨：
計算科学シミュレーションと工学設計分科会は、(1) ものづくりや工学設計に関する計算科学の共通する課題、次世代スーパーコンピューティングを含む計算科学シミュレーションの基盤技術を明確にする。(2) 上記を推進するための、CGをベースとするCAD, CAEの完全融合を図る基盤技術を明確にする。(3) 関連する学協会と協力して現在個別のコミュニティーを統括する研究発表会などを作り、わが国が計算科学シミュレーション大国となる足がかりを作る。(4) 関連する人材育成の方法を提案する、を目的に設立された。これらを達成するために、第1小委員会：ものづくり支援シミュレーション検討小委員会、第2小委員会：マルチスケール・マルチフィジックスの数理検討小委員会、第3小委員会：心と脳など新しい領域検討小委員会、第4小委員会：ものづ

くりにおけるスーパーコンピュータ技術の推進検討小委員会、第5小委員会：日本学術会議計算力学小委員会を設けて進められている（ただし、第5小委員会は12月9日の幹事会で申請予定）。

本シンポジウムでは、第1、第4小委員会からの提言、第2小委員会からの記録を紹介し、議論する。

さて計算力学は、実験、理論に続く第三の手法としてモノづくり、安全問題などにおいて欠かせないものとなっており、その学術も日々発展している。国際的には、国際計算力学連合（IACM）がその方面の学術のまとめ役になっており、2年ごとに約3000名規模の学術集会、年に10回を超えるシンポジウムなど、十分にまとまって機能している。それに対し、我が国においては複数の計算力学関連学会で、独自に活動をしており、統一やまとまりがなく非効率な活動、運営態勢となっている。そこで、この方面の学会代表者が、今後の国内態勢や国際連携、国際貢献のあり方、アジアや世界との連携方策に特化し、議論して将来のあり方を検討するために第5小委員会の設置を計画している。この小委員会のメンバーがパネリストになり、このような議論をより多くの参加のもとで行うべく討論会を開催する。

7. 次 第：

10：00 開会挨拶：

矢川元基（日本学術会議第三部会員、
総合工学委員会委員長、東洋大教授）

10：10 基調講演1：

ものづくり支援のための工学シミュレーションの品質問題
白鳥正樹（日本学術会議連携会員、横浜国大教授）

11：10 基調講演2：

数理脳科学の現状と課題
甘利俊一（東大名誉教授、理化学研究所脳科学総合研究センター）

12：00 休 憩

13：10 「ものづくりにおけるスーパーコンピューティング技術の推進
検討小委員会」から提言

加藤千幸（日本学術会議特任連携会員、東大教授）

14：00 「マルチスケール・マルチフィジックスの数理検討小委員会」から報告

松宮徹（日本学術会議連携会員、新日本製鐵（株）・顧問）

14：50 休 憩

15：00 パネルディスカッション／計算科学シミュレーションの現状と課題

「我が国が計算科学シミュレーション分野で世界を牽引していくために何をすべきか。」

パネリスト：(未定)

16：50 閉会挨拶：

17：00 終了

8．関係部の承認の有無：第三部承認

9．申し込み方法・連絡先

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学教授 大学院理工学研究科 機械物理工学専攻

萩原 一郎

E-mail: hagiwara@mech.titech.ac.jp TEL/FAX: 03-5734-3555

1 2	
幹事会	1 1 3

提 案

国内会議の後援

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
世界化学年記念「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」 主催：一般社団法人日本化学連合 期間：募集 平成 22 年 12 月 1 日～23 年 4 月 10 日 選考 平成 23 年 4 月 11 日～23 年 6 月末 表彰式 平成 23 年 8 月 場所：科学未来館（表彰式）	一般社団法人日本 化学連合会長	第三部
第 12 回日本口腔機能水学会学術大会 主催：日本口腔機能水学会 期間：平成 23 年 3 月 27 日、28 日 場所：日本歯科大学	日本口腔機能水学 会会長	第二部